

彼方 「かなた」

校長通信
H30.3.23
Vol.30

【みがき合い・支え合う、心豊かでたくましい生徒】



本日をもって平成二十九年
年度のすべての教育課程を
修了いたします。

これまで皆さんに「人と
しての生き方」について考
えて欲しいと思い、機会あ
るごとに様々なお話しをし
てきました。例えば、一年
生が今年度入学するにあたって話したのは、「雨乞い
の祈禱師」を通して、「決して諦めない、今をできる
ことを精一杯やって生きる」ことを伝えました。覚
えていますか？

平成二十九年最後の校長メッセージは、「誰かの
ために」というお話です。

学校は、決して一人で学ぶところではありません。
みんなで助け合って学ぶ場所です。その中で皆さん
は、学校教育目標を目指して、学校生活を送って
くれたと思っています。「みがき合い・支え合う、心豊
かでたくましい生徒」ひとつひとは簡単な言葉で
すが、意識せずに実行できるようになるのはとても
大変だと思います。大人でも時々忘れてしまい自己
中心的な振る舞いをしてしまうことがあります。で
も、私たちは絶対に忘れてはならないのが、「一人一
人が生かされている」ということです。

夜回り先生って知っていますか？水谷先生は元定

時制高校の生徒指導をされていた先生です。彼が関
わった若者の中に、薬漬けの男の子がいました。い
つも「死にたい」と言っては水谷先生の所にメール
を送ってきたそうです。その彼に先生がアドバイス
したのは、自殺を止めることではなく、「どうしても
死にたいのなら、誰かに一度でいいから優しくして
からにしないさい。」ということでした。そんなある日

彼の部屋から毎日おばあさんが重そうにゴミ出しを
している姿が目にとまりました。水谷先生の言葉を
思い出した彼は、外に出て行き、おばあさんに声を
掛けました。「俺、持って行ってやるよ。」おばあさ
んは見知らぬ青年に一瞬躊躇したようですが、「あり
がとう」と言って深々と頭を下げたのです。彼は次

の日も声を掛けました。そして次の日も……。そのう
ち、水谷先生に「死にたい」というメールがなくな
ったそうです。そのかわりに「おばあちゃんと笑
顔で挨拶ができるようになった。」と報告する内容に
変わっていったそうです。ところが彼は、その電話
の数日後に、薬の誤飲により亡くなってしまったの
です。「俺、今まで他人からありがとうなんて言われ
たことがなかったし、おばあちゃんと話していると元
気になるんだよね。」という彼の言葉が、今でも耳
に残っているそうです。夜回り先生が救われたのは、
彼が自ら命を絶つという選択をしなかったことです。

人にはそれぞれ「天命」という、その人が生まれ
ながら持っている役割、天から与えられた使命とい
うものがあるといわれています。それにいつ気がつ
けるかどうかが大切です。早くから意識し、見つけ
られる人もいますが、なかなか見つけられない人も

います。もつと言えれば見つけようとしなくてもいま
す。私は、教師という人を育てる仕事に就きました。
今の仕事が一番頑張れるし、楽しいです。今は、教
師が自分の「天命」だと思っています。

では、自分の役割（天命）に気づけるようにする
にはどうしたらよいのでしょうか。それは、「誰かの
ために」ということを意識して行動することです。

毎日の学校生活で、自分の行為の元にある「他に対
する思い」を意識することです。何となく歌ったり、
挨拶したり、掃除をしたり、拍手をしたり、いろい
ろな活動をするのではなく、いつも相手のことを思
ったり、仲間のことを考えたりすることが、いつか
自分の役割を見つけることにつながっていくのです。

来年度、二年生は最上級生として、一年生は学校
の中心として、どうしたらいい学級や学年、学校に
できるかを考え、雨乞いの祈禱師のように「誰かの
ために」自分から行動を起こし、決して諦めること
なく、最後まで続ける勇気を持ち続けて欲しいと思
います。それが学校教育目標「みがき合い・支え合
う、心豊かでたくましい生徒」の実現にもつながっ
ているのです。

白山中学校に必要な人一人もいません。白
山中学校にダメな生徒やダメな先生も一人もいませ
ん。ただダメなことをやってしまうことがあるだけ
です。それは正せばいいだけです。一人一人が役割
を担い、「誰かのために」自分ができることを一生懸
命やり続けることで、いつか自分の天命にも気づく
ことができると思います。

互いの価値ある一年間に感謝したいと思います。